

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2・29	・事業所の地域化を、おとしより一人一人に繋げ、地域住民の一員としてなりえるための取り組みや支援が不足している。	・一人の繋がりから、少しずつ地域との繋がりを広げていく。	・運営推進会議の情報交換の中で、教えていただいた地域行事や活動に、利用者、職員が積極的に参加する。 ・ホームの行事などに、地域の方をご招待する。 ・日常生活の中で、地域にあるスーパーや美容院、また神社や散歩道など「ふつう」にあるものを「ふつう」に利用していく。そして、そういった中でおとしよりが主体となり地域の方と関われるよう、繋がりを丁寧に支援する。	12ヶ月
2	13	・研修で学んだ事を、現場での実践へ繋げる取り組みや体制ができていない。	・職員一人一人の意識や力に合わせた実践ができ、かつその実践した内容を共にとらえ、フォローアップできる体制をつくる。	・研修での学びを自分なりの言葉で報告できる場をつくる。 ・研修での学びをリーダーと共有する。そして、実践の一つ一つを、その職員のペースで取り組むことができる体制をつくる。 ・おとしより一人一人に対して、個々の職員が目標を持つ。	12ヶ月
3	18・38	・おとしよりの生活を奪っている場面があり、生活を返す(自分らしい)支援が必要。	・奪ったおとしよりの生活に気づき、おとしよりと職員が「共に暮らす」というイメージと、「ふつう」を少しずつでも描いていけるようになる。	・おとしよりを「みる」回数、一緒に「過ごす」機会を増やす。 ・おとしよりを一方的に知るのではなく、自分達のことも知っていただく。お互いに知り合う関係を築く。 ・おとしよりのありのままの「姿」を受け止めることができるのか。その時に関わった、自分(職員)の感情やこだわりを知る作業をする。	12ヶ月
4	26	・おとしよりのその時々生まれるニーズに対して、職員同士が共有できていない場面がみられる。	・日々の申し送りの中で、その人の今日の「姿」を伝え、共有することができる。そして、それが申し送りの場だけでなく、自然に職員同士が共有することができるようになる。	・最初はカタチとしても、申し送りの中でおとしよりの今日の「いいこと」(目の輝きなど)を伝える。 ・問題点やマイナス面からだけでなく、ニーズを取り上げるのではなく、おとしよりの「いいところ」「いいこと」をニーズとして、支援へと繋いでいく。 ・気づきの多い職員を中心とし、日頃からおとしよりのことを話す機会を自然につくる。	12ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。